障害乳幼児（母子）通園施設職員研修会　　2008.10.17.

「親への専門的支援のあり方」・レジメ

阿部幸泰
（「雑学」HP：**http://www.h4.dion.ne.jp/~dekunobo/**）

Ⅰ：親の専門家への願い
「専門家は、指導や助言以上に、親の不安感を取り除いてください。
親にエネルギー をいっぱい与えてください。
そうすれば親子で前向きに生きていく勇気が生まれます。
それは、障害を治すことと同じくらい、いえ、それ以上にありがたいことです。」

相手を理解するのでなく、まず**相手が自分を理解者と認めてくれる関係**を築くこと。

Ⅱ：母子通園施設の最高のメリット
親は障害のある我が子の育児に戸惑い、不安を抱いているだけに、子どもを預ける保育所・幼稚園と異なり、**子どもとの付き合い方を親が学ぶことが出来る。**
← スタッフは、子どもとの付き合い方の**見本を親に見せ、伝えること**である。

Ⅲ：専門家の資質
人間相手（支援、教育、育児、保育、療育、等）の仕事には、ゴールはない。
係わるだけでなく、係わり合い続けること（“ Not doing, But being. ”）。
知識と技術に裏打ちされた**知恵をいかに働かせるかのチャレンジ精神**と、**自らを検証する勇気**が必要。
（与えられる知識は応用が効かない。求める知識は知恵となる。）

Ⅳ：①家族と係わり合う折に留意していること（別紙参照）
② オ母サンのもつ機能、心の居場所、しつけ（別紙参照）
③ 親の心理過程（別紙参照）

Ⅴ ： 関係機関・者の連携とは
すぐれたネットワークとは、まず情報を共有し、地位や立場とは関係なく、
①（ 担当のケースに抱く）個人的で感覚的な不安や感想も話題にできるような、**ざっくばらんな場**であることがとても重要。
②そのケー スに係わる周囲の人たち（関係者）が、お互いの大変さや内面の揺らぎを、**仲間として支え合うこと**。

Ⅵ：「地域で共に生きる社会」とは
単に地域の福祉資源を利用することだけではない。
それ以上に、地域の方々（ 親も含め） が**共に生活する地域社会の構築、意識改革こそが必要**であり、目標となる。→ 地域とは、場所でなく、地域の人々との繋がり。

Ⅶ：生きる喜び　　イ）人と係わり合う喜び　　ロ）知らないことを知る喜び
生きる→ 人間関係→ コミュニケー ション
・コミュニケー ション： 互いの背景が異なるだけに、すれ違いや受け取り方に異なりが生じるのは当然であり、だからこそ螺旋的コミュニケー ションが必要。
→ 寄り添い、やりとりの継続
・生きる営み：あえて比べず、生きようとする生命が互いに係わり合い、輔け合いながら、**生きるとはどういうことかを問い続ける活動**。

Ⅷ：質疑応答